

平成 22 年度 長野市産業振興審議会 第 4 回 観光振興専門分科会

日 時 平成 23 年 3 月 15 日（火） 午前 10 時 30 分～12:00
場 所 長野市役所 職員会館 3 階 会議室
出席者 委員（15 名中 10 名出席、5 名欠席）
事務局 5 名、コンサル 2 名

【 質疑応答部分 議事録 】

（1）平成 22 年度主要事業の実績（見込）について

[委員]

3 連休のお客さんの入込みについて、情報は入っていないでしょうか。

[市]

戸隠スキー場について、お泊りのお客様もいらっしゃいますし、キャンセルも出ております。今の時点ですと、お泊りのお客様もいらっしゃいますので、すべて運行停止というわけにはなりませんので、部分的にリフトを運行停止し、出来る限り自粛するなかで、節電に努めながら営業を行っております。

（2）平成 23 年度主要事業の計画について

[委員]

いいとき観光推進協議会のプロパー職員については、どこか支所とかに配置されるのでしょうか。

[市]

今の段階ですと、観光課あるいは本庁の中で対応することを考えておりますが、開発公社とも共同で行っている事業ですので、開発公社あるいは観光課になるか検討を行っているところです。

（3）次期観光振興計画の考え方及び政策骨子（案）について

[委員]

インバウンド関係ですが、国が誘致をしているところを利用することは大切なことだと思いますが、国の考え方・県の考え方・長野市の考え方、それぞれ誘客場所についても全く違うと思います。制度を使うことはいいことですが、その辺どのように考えられるか。

また、観光基礎調査のところ、長野県と長野市を比較されていますが、長野県の観光地、基本的には温泉地にあります。長野市は街中と中山間地域になっています。松本市と上田市と飯田市と比べたときに、どういう状況になっているかということを調べるのが今後の長野市に参考になるのではと思います。

また、観光振興における各主体の役割のところ、確かにこのとおりだと思いますが、今、言われているのは行政がどう考えるか、観光協会がどう考えるか、事業者がどう考えるかではなくて、お客様がどう考えるかということのを的確に吸収していかないと誘客に結びつかないのではないかと思います。ということをご意見として述べさせていただきます。

[委員]

内容的にはよくまとまっていて、分かり易くなっていると思いますが、現実問題として一番大切なことは、「長野市が抱えている観光の課題」これは「何故」なのかということ、例えば宿泊客が少ないことや、観光客が伸び悩んでいることとか、その「何故」が書かれていないと思います。その問題点が浮き彫りになった上で、こう解決するべきだという指針が出てくるとと思います。

[委員]

観光とまちづくりを結びつける基本的な考え方はいいと思います。各主体の役割分担も大事ですが、逆にいかに相互に連携していくかということが大事だと思われまます。

また、北回廊についてですが、今後上越との連携も大事だと思います。また、上田を拠点にした観光もこれから大きな流れになってくるのではないかとと思われまます。

[委員]

リピーターの増加とあるのですが、これは具体的に増加するためにはどのような取組をするのか。

京都でも日帰り客が圧倒的に多くて、いろいろな対策を講じて、夜遅く三千院などお寺をライトアップするとか、朝早く何かをするといった取組や、土日の朝市など、宿泊していただける観光客を増やす努力をしています。

それと温泉地がないので、ツアーで組むと、どうしても温泉地に泊まりたいというのが多くなるのですが、長野市としてどのように具体的に対策していくのかということが欲しいです。

[委員]

このような大きな議題の審議は、今日だけで終わりなのでしょうか。

[市]

本日、頂いたご意見等を踏まえまして、今後、計画策定作業を進めさせていただきますが、今日のご意見に対応したものをまとめさせていただきます。また別の機会を設けまして、委員の皆様にはお計らいさせていただきたいと考えております。

まずは、今までの経過を分析したということのご説明と、骨子として素々案をまとめたもので、今後、委員の皆様から頂いたご意見を、この計画の事業の中に盛り込んでいくようになります。

[市]

今、頂いたご意見等は、コンサル事業者の方ともう一度再分析をさせていただき、何故という部分についてももう少し明確にするとか、もう少し詳しく分析をしていきたいと考えております。

それともう一点、広域連携の話の中で、上田の方ともという話もありましたが、実は私もそれは考えておまして、昔、真田サミットというものをやっていたのですが、しばらく実施していなかった時期がありましたが、真田の関係で上田と連携を深めようということで、真田サミットを復活させようという動きがありまして、そこにも積極的に参加させていただきたいと考えております。

[委員]

よく、出来ている、出来はじめていると評価をさせていただきますが、ただ、皆様もそうだと思いますが、新幹線が金沢まで延びることばかり頭の中でありまして、むしろ、上田から直江津というこれを繋げていくという。旧線を何とかしていく、これは行政の課題でもあります。これは観光にも結びつくと考えております。

小諸・軽井沢から上越までの旧線を活用することでインバウンド対策にもなると思います。SLを走らせるなど、信越線の沿線そのものが一つのテーマパークのようになって、地域の観光

地を訪ねてもらえるようになればと考えております。

[委員]

今後の展開の中で、より意識的な取組が必要とされていますが、どういう取組なのか。各地域のブランド化に向けた今後の展開で、どういう括りで再編成を検討していくのか。また、新たな連携体制が求められるとしていますが、新たな連携体制というものはどういうものなのか。そういったところが、まだ見えてきていないと思われます。

各主体の役割のところ、どこが主体となっていくのか、どういう組織体制で取り組んでいくのかが見えたらなと思いました。

[委員]

長野県全体にも言えることですが、このエリアはあまりにもコンテンツが多すぎる。温泉である、神社である、高原である、食である、農場である。

コンテンツが多すぎるが、観光客もそれを目指して訪れてきます。そのようなコンテンツを活かして、いくつものコースができる。どこにもない信州の観光スタイルを見出していくことが大事だと考えます。

[委員]

地元で居て、地元をあまり知らない。足元から固めていくことが大事で、住民意識が高まっていく、そして、それを継続していく取組が大事だと考えております。

それと、戸隠キャンプ場のドッグランですが、泊まった人達だけでなく、みんながそこに行ってお楽しみすることができるようなものを作ってもらえればありがたいなと思います。地元でそういう大きなドッグランがあってももらえると、そういうところへ犬を連れて出掛けてくる方が多くなると思います。

[市]

キャンプ場のドッグランについては、そこでキャンプをした方だけでなく、一般の日帰りのお客さんでもご利用可能ということで、少しでも多くの方に来ていただきたいと考えております。

[委員]

今、出たご意見をぜひ計画に盛り込んでいただければと思います。私は骨子(案)について、まとめたばかりということですが、方向性は間違っていないと考えております。ただ、これから肉付けをするとなれば、いろんなお話が出ましたけど、やはりコンテンツが多いので磨きを掛けて、もう少しお客様の意見もお聞きして、行政の関係、国・県・市がどのように考えているのか、当然、長野市が強くなければなりません、連携もとっていかねばならないと思います。

[市]

本日の骨子(案)につきましても、あくまでも素々案ということでご説明させていただきました。委員の皆様から貴重なご意見を頂きましたので、また修正を加えながら、改めてお示しさせていただき、ご議論いただく中で確かなものにさせていただきたいと考えております。

[市]

本日は、いろいろとご審議をいただきましてありがとうございました。以上を持ちまして、第4回観光振興専門分科会を閉じさせていただきたいと思っております、お疲れ様でした。